

「ビンギョル地震 2003・5 No5」

佐々木さんの5月5日のレポートの続きです。

-----

ビンギョルから その2の2 (5月5日)

○テント村には行きたくない

ビンギョルでは、被災者への救援活動の全ては軍隊のコントロールの下で行われる。軍の許可・黙認が無ければ何もできない。数百規模のテント村を建設しているが、だれもが入りたがらないことは前回記したとおり。

被災した場所でテント生活を続けるか？テント村に移動するか？冷静な判断がようやくできる時期が来たようで、高齢者や病人を抱えた家族からは、ケアの体制（飲食・衛生・医療・治安など）が整ったテント村に移動することを検討する動きもあり、市はアンケートを近々開始して対応を考えるとのこと。

軍隊と鉄条網に守られての被災生活で安心を確保するのもまた、正解。ただ、彼らは被災者だけけれども、難民ではない。

○便乗商売もええかげんのせえ！

家族3人を亡くした Hiklet さんのテントでチャイをご馳走になる。「チャイを飲む仕事」は私の最も得意とするところ。壊れた建物・テントでの仮住まい・青空の下被災生活でのチャイ・・・この日常からかけ離れた光景が私にはトルコで最も馴染みのものになってしまった (^\_^;

5人の家族が確保した3張りのテントで不自由な生活を送っている、食事中を通りがかつたら男性が声をかけてくる「食事をしていかないか！」傍で女性が悲しい涙を流している。ためらいがちに用意された席に座る。9歳の少女がチャイの用意をしてくれる。四方山話に時が過ぎる。

「4年前マルマラ地震の時、トルコの人たちは自分で仮住まいの小屋をどんどん造っていた・・・KOB Eの被災者との一番の違いに驚いた」と、アドバイスをかねて感想を伝えると「地震前は1mで100円位だったビニールシートが、この5日間で600円以上になっている」とのこと

他の生活物資（食料・日用品）の高騰が、まだ無いのが救いなのかも知れないが、恥知らずの商売人のやり口には本当に腹が立つ「恥知らずの連鎖」の前に「支え合いの連鎖を」届けなくては。

○市長はなかなかの人物

昨日の危機管理センターで黙礼だけを交わしたビンギョル市長(フェイズラ氏)と面会する。

「今回倒壊した建物の大半は国が建設に関わったものでは無いか！生命を守る建物を建てるべきだ！」と、ぶつけると・・・平然と『地震は人の生命を奪わない・・・不完全な建物が生命を奪うのだ！』と即座に返答が返ってくる。国政府への怒りが言下を感じ取れるが、市民の生活と生命を守ることをまず言葉に出して喋る政治家・首長に出会うのは希な体験だ。

食事や救援物資の配給状況も概ね把握できていて、資料を見ずに細かい数字を語ってい

る。ちょっと太りすぎやけどなかなかの人物だ。『デリンジェでは地震の翌日から炊き出しを始めた。K O B Eの時も行こうと思ったが、資金の関係で断念した・・・』（リップサービスにしても有り難い)

『K O B Eもビンギョルも 同じ痛みを体験した市民が生きている 心は通じている K O B Eからのお見舞いに感謝する よろしく伝えてほしい』そんなメッセージを受け取って失礼する。

被害を受けた市庁舎の前の公園に「危機管理センター」のテントがあり、そのいちばん奥の小さな応接テーブルが彼の席で、地震当日から必ずそこにいる。私との面会中もたくさんの市民がやって来ている。逃げも隠れもしないでそこで執務を続ける市長には敬服の限りだ。

このテントのすぐ隣に今日から市役所機能が再開された。テントの地面に置かれた事務机でコンピューターが何台も置かれて手続きに訪れる市民が出入りしていた。

○有名人はテレビカメラを連れてやって来る

有名企業の社長やら、政治家が何人も被災地を舞にやって来ているらしい。新聞記者かテレビカメラをつれて写真を撮らせて去っていく。被災者は彼らの本心をお見通しで「彼らは10分もビンギョルにいないよ。彼らの応援でも無いよりいいが、持ってくるのはほんの少し、テレビに映ればそれだけでいいんだから」と、まるで相手にしていない。「手ぶらで来ても、ここでゆっくり話を聞いてくれるお前たちの方が有り難いよ」と言われてちょっと嬉しい気分になる。

○1万3千のテントは どこに??

間違いのない数字がある。軍隊が把握している数字だ。ビンギョルに届けられたテントの総数1万3千張。ビンギョル市の人口6万8千人

「テントが足りない！」で端を發した暴動は何だったんだ？

「食事の配給がない！」数カ所で聞いたが、確実に8カ所では炊き出しがある。

情報が伝わらない・被災者の実態を把握する情報収集が滞っている。

学生支援チームT O Gにテント前で、情報の流通こそインテリゲンチヤアのあなた達の最も期待される仕事のひとつだね・・・と伝えると、昨夜の会議からそのことに取り組んでいるとのこと。強固な身体と精神に支えられた聡明な青年たちに出会えたことは、今回の成果のひとつ。

それにしても、1万3千のテントはいつになったら、被災者の生命を守るために働けるのだ。

## ■募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「トルコ地震」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同NEWSでご紹介させていただきます。

口座番号:00930-0-330579  
加入者名:海外災害援助市民センター  
\*通信欄に「トルコ地震」と明記してください。